

第7回審議会における主な意見等

1. 地域センター単体では、学校が不足すると見える区域でも、地域センターを組み合わせることによって、不足を補うばかりか、逆に余剰がでる地域も出てくることがシミュレーションによって分かった。
2. 学校の適正配置を議論する区域を、地域センター単体で見えていくというのは、非常に難しい。地域センターの組み合わせで考えるのがいいのかなとも思うが、それにしても、その規模をどういう大きさに区切るのかというのも、非常に難しい問題と感じている。
3. 児童がお互いの地域を行き来していることから、赤塚・成増という地域センターの組み合わせと、赤塚・徳丸・高島平という組み合わせが例にあがった。しかし、地域センターの特性、青健の行事等の個別の地域の課題があって、一律に見ていくというのは非常に難しいことも実感した。
4. 地域センターを組み合わせた地域が、適正配置を議論する地域として1つになるというのは難しいのではないか。
5. 赤塚と成増と徳丸の地域センターは、単独で見ると学校が足りないという地域だったはずだが、高島平地域センターの区域まで含めると、データ上は1校足りない程度の中におさまる。こうした場合は、適正規模と同時に適正配置という話に当然入っていかなければいけない。
6. 赤塚地区で地域センターの区域を組み合わせると、物すごく広い地域となるが、仲宿、仲町地域センター近辺を四つ合わせても、たいした広さにはならない。そうした地域については、こういうふうに学校があると、通学するのに便利だというシミュレーションをしてゆかなければならない。この審議会ですうした地域をある程度限定するのが、今日やらなければいけない仕事かなと思っている。
地域を特定した上で、こういう形にしたらどうだろうというのを出さないと、なかなか視覚的にもわからないのかなというふうには思う。
7. 高島平地域に、徳丸地域センターの管内の児童が通っているわけだが、これをもう少し高島平地域に誘導できれば、新しい学校をつくらなくても解決するのではないかという見方ができる。しかし、通学時間の関係で言うと、やはりそれは現実的ではないなというふうに思う。
ここは大きな幹線道路があって、5号線というのを越えるところが非常に少ない。安全に越えるための陸橋は、一つか、二つくらいしかないのので、そこを越えて通うというのは、非常に難しいと考える。やはり、高島平と下赤塚・成増・徳丸地域というのは、分けて考えざるを得ないと思う。
8. 下赤塚・成増・徳丸地域で赤塚三中の付近に小学校がないなというのは、先程から意見があったとおりなので、こちらの関係でもう少し具体的な話を進めていく必要がある。

9. こうしてみてくると、板橋地域センター近辺は統廃合を含めて考える、逆に赤塚・成増地域は学校を増やすという方法しかないように実感する。例えば、赤塚・成増地域というのは、学区域を変えて、今の状況を変えられるという可能性があるのか。難しいのではないかな。
10. 今まで委員から出た意見は、結局、学区域の広さ、学校の数ということにある程度問題が集約されるということになると、「仲町地域センターと近隣地域センター」については、学区域の見直しというようところが一つ改善策としてでてくるのではないかな。
11. 板橋区が指定校制度であれば、学区域の見直しも分かるけれども、現状が学校選択制である以上は、学区域が変わっても決定的な改善策とはならないと思う。
しかし、必要ないということではなくて、学区域の見直しというのが、学校の人数云々ではなくて、小・中との連携に対しての見直しはあってもいいかもしれない。
12. 学区域の見直しはぜひやった方がいいと思う。確かに選択制で自由に移動もできるかもわからないが、中学校と小学校との線をもう一度見直してやることによって、変わってくるのではないかな。
こんな近いところが、何で向こうの学校なのというところも結構見受けられる。もちろん道路とか、いろんな兼ね合いもあるとは思いますが、現在、隣接しているこちらの南の方の地区でも、小学校でも学校の児童数が多くて、仮設校舎をつくっている学校もあれば、隣では少ないという学校もある。学区域を見直してやってみるというのも、一つの方法ではないかな。
13. 赤塚・成増・徳丸の地域というのは、ほとんど学区の変更というのは不可能な状態ということが逆に言えるのではないかな。学校を新設することを、この審議会では前提に考えないというふうになってしまうと結論が出ない。審議会として新しく学校をつくることも考える必要があるということを選択肢から外すべきではないというふうに思う。
14. 小学校と中学校の通学区域が大幅にずれている前野地区が、気になっている。ある小学校の進学先が三つの中学校に分かれているので、そういうところがやはり検討課題なのかなと思っている。
15. 次回のステップとして、基本的には中学校の区域が適正配置を議論する地域となり得るかどうか、そんなことに移っていく。